ノータッチ錠の開発経緯

HACCP 実践研究会　副会長　宇井加美

ノロウイルス感染の拡大の要因のひとつとして接触による伝搬がある。
東京都のノロウイルス対策ガイドラインにも実験によるドアノブの感染伝播について記載されている。
対策のひとつとしてトイレでは糞便後ブース内で手洗い行為をするのが一番よいが、既設トイレではスペースや配管ルートなど現実的でない。

新設トイレではぜひ、トイレブース内での手洗い器設置の検討をしていただきたい。

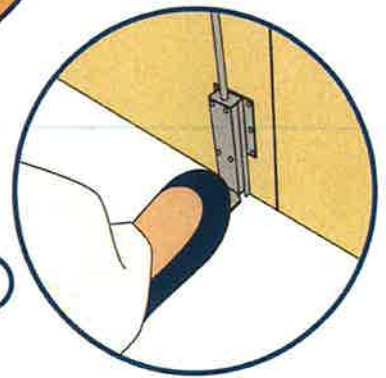
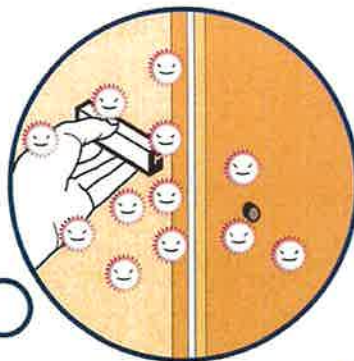
現状での解決方法への提案をしていただいたのが、大妻女子大学　井上栄先生です。
先生はトイレブース扉を、手を使わずに開けられる、足踏み式の開放装置の特許を取得しており、世の衛生対策のために、現物を生産したいと声をかけていただきました。

そこで、日本の老舗鍵メーカーの堀商店へ試作開発を依頼しました。
堀社長もノロウイルスについて井上先生の講義を聴きながら、技術陣が試作し菓子工場や弁当工場でテストを繰り返し、強度など技術的な検証を実施し製品の開発ができました。
単純なブースの鍵ですが、防犯対策としてブース外から操作がしにくい取り付け位置や中で倒れた場合の非常解錠などさすが老舗の鍵メーカーが多岐にわたり検討して出来上がりました。

鍵の資料は、堀商店の資料です。
ぜひ、現場での活用をご検討ください。

井上先生は　もと国立感染症研究所　疫学部長　感染症情報センター長、
現在大妻女子大学で公衆衛生学を教えています。
幸書房から出版されている 「ノロウイルス現場対策」執筆者です。

添付資料：ノータッチ錠取扱説明書
　　　　　堀商店　カタログ（HORI－1451　ノータッチ錠
堀商店　ご相談窓口　　03－3591－6301

1451
ノータッチ錠
NO-touch Lock
トイレ個室内開き常開扉専用・足踏式

ノータッチ錠で

手を触れずにトイレの扉を開ける！

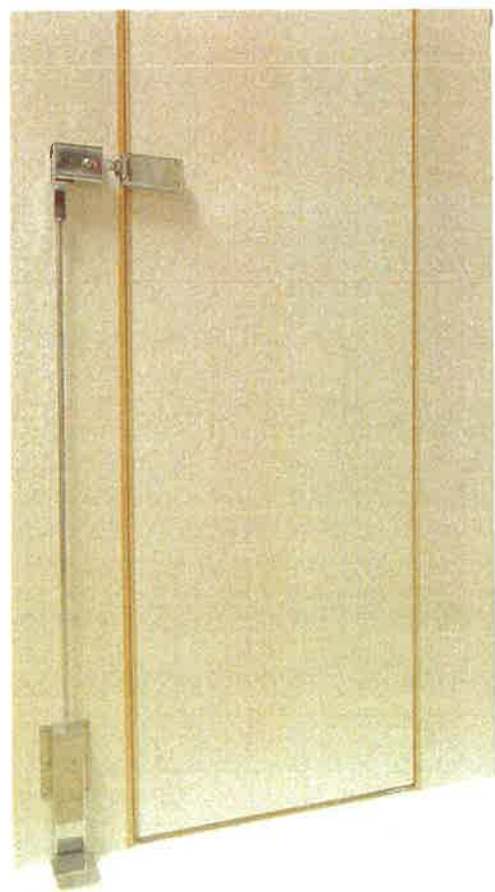
ノロウイルスが流行する時の有効な対策として、ひとつには手指を介するウイルス移動の遮断が考えられます。

共同トイレの個室ではノロウイルスに汚染された錠に触ることで感染が広がる可能性があります。

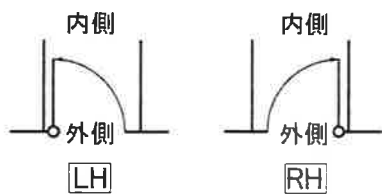
そこでHORIはノータッチ錠を開発しました。

ノータッチ錠は内開き常開扉専用の自動錠です。

個室に入って手で扉を閉めると自動的に施錠し、使用後は錠には触れずにペダルを踏めば扉が自動的に開扉するのでウイルス感染の拡大予防に有効です。またノータッチ錠には非常解錠装置が付いており、緊急時、外部からの解錠が可能です。

衛生管理を重視する食品製造所、病院、そして高齢者施設等の共同トイレにHORIのノータッチ錠は最適です。

HORI 合資会社　堀　商　店

〒105-0004
東京都港区新橋2-5-2
TEL:03(3591)6302～3(本社営業部)　FAX:03(3591)7589　http://www.hori-locks.co.jp

品番　　：１４５１
品名　　：ノータッチ錠
対象扉　：トイレブース内開き常開扉専用（自動開扉）

対応扉厚：３５mm以上４０mm以下
材質　　：黄銅／ステンレス
仕上　　：クロームメッキ／ステンレス磨き